

# 「新型コロナウイルス感染症問題に関わる要求アンケート」

## ——緊急100人アンケート—— 集計結果について

(2020年9月1日 徳島県教職員の会 徳島市ブロック)

### 1. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大が学校現場にも多大な影響を及ぼしている。その中で教職員は感染防止と学力保障の両立という大変困難な課題に身を粉にして取り組んでいる。

今後、新型コロナウイルス感染症拡大が長引くことが予想されるなか、子どもたちと各学校の実態をふまえた対応が求められる。そこで、私たち教職員の会徳島市ブロックでは、これまでにどのような影響が出ており、どのような問題と教職員の要望があるのか、実態把握をするために標記アンケート調査を実施した。

### 2. アンケートの概要

○調査事項：別紙アンケート項目

○調査期間：2020年7月23日～8月28日

○調査対象：徳島市内小学校の教職員

○回答者数：107名

＊教育現場の実態が目に見えてくるような延べ約350項目もの記述回答がありました。これは、深刻な教育現場の現状と教職員の切実な要求の表れであるともいえます。

ご多忙中、コロナ禍での教育現場の実態を把握するアンケートにご協力いただいたみなさんに深くお礼申し上げます。なお、個人や学校が特定される可能性のある記述等について、申し訳ありませんが割愛等をさせていただきましたこと、ご了解ください。また、徳島市外の方からも切実な声が含まれるアンケートのご協力をいただきましたが、この集計には含めていません。

### 3. 分析結果—調査で明らかになったこと、今後必要なこと—

#### (1)「3密」を避けるために、少人数学級と教職員の増員を (94%の教職員の声)

教室で「3密」を回避することは不可能に近い。多くの学級では、一定の距離を保つことが出来る授業時間や給食時間でさえ、「密」な状態である。教職員からは、「教室が狭く、ソーシャルディスタンスを維持することは難しい」「クラスの人数が多過ぎる」等の声が多数寄せられており、少人数学級を求める声は非常に強い。

学校でのクラスターを発生させないためにも、ゆきとどいた教育を進めるためにも、30人以下学級、できれば20人程度の学級を、国や県に求め、早期に実現することが必要である。

当面の緊急課題として、市独自の予算で下記のことを実現していくことが重要である。

下記の優先順位で、教員を加配して、少人数学級・少人数授業が実施できるようにすること。

- ① 35人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質36人以上の学級
- ② 35人学級
- ③ 34人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質35人以上の学級
- ④ 34人学級
- ⑤ 33人学級で特別支援の児童が交流授業を受けて実質34人以上の学級
- ⑥ 33人学級の1・2年生
- ⑦ 32人学級の1・2年生で特別支援の児童が交流授業を受けて実質33人以上の学級

## （２） 消毒作業の抜本的な見直しを

——文科省「マニュアル」に基づき、清掃時間外の消毒作業は外部委託に——（８９％の教職員の声）

毎日放課後、教職員は感染防止対策のために消毒作業等を行っているが、これは教職員にとって大きな負担になっている。「もともと」「教員の仕事ではない」（文科省初等中等教育局財務課長、教育関係者の要望の場での発言、2020.8.7）消毒作業に精力を使い、教職員の本務が後回しになっている現実がある。

教職員からは、「消毒・トイレ掃除に毎日 40 ～ 50 分はかかっている」「消毒作業は毎日のことなので非常に疲れる。年休も、消毒を人をお願いすることになるので取りづらい」「消毒作業に時間をとられ、退庁時刻が遅くなり、持ち帰る仕事も多くなった」等の声が多数寄せられている。

こうした中、文科省は、「清掃活動とは別に、消毒作業を別途行うことは、感染者が発生した場合でなければ基本的には不要ですが、実施する場合には、極力、教員ではなく、外部人材の活用や業務委託を行うことによって、各学校における教員の負担軽減を図ることが重要です。」（「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～2020.8.6Ver.3）と述べている。

しかし、上記の文科省の新しい「衛生管理マニュアル」が、学校現場へ周知徹底されているとはいえない。そこで、次のことが重要である。

- ① 「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～（2020.8.6Ver.3）」を学校現場に周知徹底すること。
- ② 清掃活動とは別に、消毒作業を別途行う場合は、外部人材の活用や業務委託をすること。

## \* 参考「福岡県古賀市では市内 11 の小中学校に消毒作業の専門臨時職員 72」

福岡県古賀市は新型コロナウイルスの感染防止策として、市立小中学校で放課後に消毒作業を行う臨時職員 72 人を採用し、今月 1 日から作業を始めた。雇用は 3 か月間で、感染状況などを見ながら更新する。

市教委によると、臨時休校後に分散登校が始まってから、各校では教職員が消毒作業を行ってきた。しかし、授業の準備や教材研究、会議、研修などの時間を削ることになり、大きな負担になっていたという。

臨時職員の多くは、「学校に協力したい」と申し出た保護者や地域住民ら。児童・生徒が下校した後の 2 時間、教室の机や椅子、手すり、遊具などの消毒を担っている。

舞の里小学校では連日、2 人が作業。野中慎治校長は「教員が児童に向き合うための時間の確保につながり、本当にありがたい」と話している。(ヨミドクター、2020.7.15)

### (3) 学校をまたぐ秋の研究大会の中止の決定を (94%の教職員の声)

徳島市における新型コロナウイルス感染状況は拡大傾向を強め、市中感染ともいえる状況になっている。こうした中での研修・研究会について教職員からは、「(学校をまたぐ) 研究授業・研究大会はなくすべきだと思う。非常事態なのだから優先順位をつけて、日常の生活をもっと大切にしてほしい」「大きな研究授業を行う必要のある大会は、早めに中止や延期を決定してほしい」「現場(校内)で子どものことを話し合い、対策を考えることが今一番の研修。研修こそ『新しい生活様式』の中で見直すべきと思う」等の声が寄せられている。

教職員は、新型コロナ対策に追われながらも、例年より少ない授業時数で学習を進めるべく懸命に子どもたちに向き合う日々を過ごしている。こうした時に、午後の授業をカットし、感染拡大が危惧される 11 月に学校をまたいだ研究大会が複数予定されていることについて、教職員のみならず、保護者・市民からも、「あり得ない」等といった驚きの声が寄せられている。

感染拡大防止、子どもと向き合う時間確保のために、下記のことを早急に決定することが求められている。

新型コロナウイルス禍での学校をまたいだ「研究大会」は中止するか、文書の配布のみにすること。

### (4) 教育現場を支え、ゆきとどいた教育を進めるための教育条件整備を

—— 感染予防に必要な物品の十分な配備を —— (100%の教職員の声)

学校は今、感染防止対策や熱中症対策に神経をを使いつつ、多くの制限がある中で授業の工夫や学校生活の充実に身を粉にして取り組んでいる。しかし、過酷な勤務の中で多くの教職員が疲弊してきており、気力も体力も限界に達している教職員から、多くの声が寄せられている。

・心身ともに疲れが蓄積してきており、いっぱいいっぱいである。

- ・非常に疲れている。精神的にも滅入ってしまっていると感じる時がある。
- ・睡眠時間を削って仕事をしているので、慢性的な病気にならないか心配。
- ・今まで以上に一日中忙しい。体調はあまりよくないが、授業を進める必要があるため、休みが取りにくい。
- ・休日出勤しないと校務がさばききれない。
- ・忙しくてトイレに行く時間がなかなかもてない。
- ・コロナ、熱中症対策の中、1学期までの学習内容を必死で終わらせようとしています。プレッシャーと疲れが溜まっています。
- ・多忙で疲労。教員はみんなだと思います。

このような学校現場を支えるため、従来の教育予算の枠を越え、徳島市行政全体で教育現場を支え、ゆきとどいた教育を実現していくという気構えが、今、求められている。

とりわけ緊張に重要と考えるのは、下記の6項目である。

- 特別教室(理科室,音楽室,家庭科室等)へのエアコンの設置。
- 養護教諭の複数配置校を臨時的に増やすこと。また,保健室の複数設置か,発熱対応の場所の確保を検討すること。 (96%の教職員の声)
- 修学旅行キャンセル料の補助。
- 大変密になっているバス通学に対応すること。
- ゆきとどいた教育と担任の負担軽減のために,複数校の兼務でもよいので,英語専任教諭を希望校に配置する。 (95%の教職員の声)
- 感染症予防に必要な物品(非接触体温計,予備用マスク,使い捨て手袋,消毒液,薬用石鹸,ペーパータオル,アルコールなど)が十分に配備されているかを把握し,不十分な場合は配備すること。 (100%の教職員の声)

以上